

2005～2006 年

国際ロータリー第 2640 地区

第 4 組

INTERCITY MEETING



SERVICE Above Self

日時 2005 年 12 月 10 日 (土) PM12:45

会場 JA 紀の里ふるさとセンター 2F

参加クラブ

橋本 RC・高野山 RC・橋本紀ノ川 RC・粉河 RC・岩出 RC

ホストクラブ

打田ロータリークラブ

プログラム

12 : 15～13 : 30	登録受付		
12 : 45～13 : 35	事前会議（部門別会議）		
	フレッシュ会員・職業奉仕	ガバナー代理	前窪貫二
	ロータリー財団委員長会議	地区財団委員長	岩本行弘
	米山奨学部門会議	地区米山委員長	神谷尚孝
13 : 40～14 : 10	歓迎コンサート	粉河高校K L Bクラブ	
14 : 10～14 : 40	開会式	司会 IM SAA	三木 茂
	点鐘	ホストクラブ会長	森畑正義
	君が代、奉仕の理想	ソングリーダー	藤田源吾
	開会の言葉	IM 実行委員長	梅田欣嗣
	歓迎の言葉	ホストクラブ会長	森畑正義
	ガバナー挨拶	ガバナー代理	前窪貫二
	ゼネラルリーダーの紹介	ガバナー代理	前窪貫二
	ゼネラルリーダー挨拶	ゼネラルリーダー	亀岡 弘
	バストガバナーおよびガバナー	ゼネラルリーダー	亀岡 弘
	補佐紹介		
	地区役員紹介	IM 実行委員長	梅田欣嗣
	参加クラブ出席報告	登録受付委員長	榎原ひろ子
14 : 40～15 : 40	講演	司会 IM SAA	三木 茂
	講師の紹介	IM 実行委員長	梅田欣嗣
	講演「超我の奉仕—職業倫理—」	元 RI 理事	菅生浩三
15 : 40～16 : 10	質疑応答	司会 ガバナー補佐	柏井健作
16 : 10～16 : 30	閉会式	司会 IM SAA	三木 茂
	概評	ゼネラルリーダー	亀岡 弘
	次回 IM ホストクラブ紹介	ホストクラブ会長	森畑正義
	次回ホストクラブ会長挨拶	岩出 RC 会長	長浜順三
	閉会の言葉	IM 副実行委員長	井尻和男
	手に手つないで	ソングリーダー	藤田源吾
	点鐘	ホストクラブ会長	森畑正義

参加ガバナー・パストガバナー・地区役員

ガバナー 代理パストガバナー	前窪貫志様	(和歌山南 RC)
ゼネラルリーダー・パストガバナー	亀岡 弘様	(泉南 RC)
パストガバナー	水田博史様	(岸和田東 RC)
ガバナー ノミニー	三軒久義様	(河内長野東 RC)
4 組ガバナー補佐	平田晃生様	(高野山 RC)
4 組ガバナー補佐	柏井健作様	(打田 RC)
地区代表幹事	楠部賢計様	(海南東 RC)
地区 IM 担当副代表幹事	谷脇良樹様	(海南東 RC)
地区職業奉仕委員長	桃田隆彦様	(和泉 RC)
地区職業奉仕副委員長	角谷浩三様	(泉南 RC)
職業奉仕委員	松生 満様	(忠岡 RC)
ロータリー財団委員長	岩本行弘様	(富田林南 RC)
地区財団研究グループ交換委員	榎本文博様	(粉河 RC)
地区米山奨学事業委員長	神谷尚孝様	(和歌山東南 RC)
地区米山奨学委員	松下光春様	(泉南 RC)
地区米山奨学委員	浦口英尚様	(和歌山城南 RC)
地区会員増強委員	酒向征時様	(橋本 RC)
地区青少年ライラ委員	小林義信様	(橋本紀ノ川 RC)
地区環境保全委員会委員長	亀岡弘昭様	(高野山 RC)

尚 亀岡様には開会式で紹介漏れ謹んでお詫び申し上げます。

開会の言葉

打田 RC IM 実行委員長 梅田欣嗣



皆さん今日は。IM 実行委員長を勤めさせていただきます梅田欣嗣です。本日はお寒い中 IM4 組インターシティ・ミーティングにご参加いただき誠にありがとうございます。ゼネラルリーダーの亀岡様にはひとかたならぬお世話いただき心より御礼申し上げます。

さて今年度の RI テーマは超我の奉仕でございます。我々ロータリアンがロータリアンであるという意義を見つめられる機会を与えられました。本日は亀岡様のお世話で元 RI 理事の菅生浩三先生をお招きして職業倫理、職業奉仕の理念などを先生から詳しくご教授くださるものと期待いたしております。

尚、当打田クラブは会員数 13 名と少なく、また私を含めロータリーの経験不足の会員が多いので、不行き届きの点、ご不満な点が多々あることと存じますが、ロータリーの友情に免じまして、なにとぞお許し願いたくお願い申し上げ、開会の言葉とさせていただきます。

歓迎の挨拶 打田 RC

会長 森畑正義



皆さん今日は。年末でお忙しい中、また寒い中かくも大勢の方のご参集をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、本年度の国際ロータリー2640 地区 4 組の IM のホストを仰せつかりました当打田クラブは何分にも人数が少なく不行き届きの点があると思いますがよろしく願いいたします。

本日のテーマでございますが平尾ガバナー様の強い要望でここに掲げています超我の奉仕をテーマとさせていただきます。最近の新聞もしくはテレビのニュース等により国内の経済、政治のニュースでは非常に多難で難しい問題が山積していますが、ちょうどその時期にこの超我の奉仕ということで本当にいいテーマだと思っています。

そのテーマにのっとりまして本日は先ほどもご紹介がございましたがお忙しい中菅生先生に来ていただきまして本日講義を受けることになりました。何分菅生先生の 2660 地区では本日地区大会になっています。そんな忙しい中このように駆けつけてくださいまして厚く御礼申し上げます。

この本会議に先立ちまして部門別会議をすでに無事終了しております。ご出席されました皆様方本当にありがとうございます。

最後になりましたが不行き届きな点があると思いますが最後まで本日の IM を有意義に過ごしていただきたいと思います。ご協力のほうよろしくお願い申し上げます。

ガバナー挨拶

ガバナー代理パストガバナー 前窪貫二様



今日は、ご紹介いただきました前窪です。本来なら平尾ガバナーがこの席で挨拶するわけでございますが平尾ガバナーのご尊父が 97 歳でお亡くなりになりました。

長らく海南 RC に所属された方なのでご冥福をお祈りしたいと思います。そういうことで平尾さんが非常に残念だと思います。皆様の顔を見ながら挨拶するのが当然で残念だと思いますがこれは一つのしきたりでやむおえないことです。喪主が抜けるわけにはいけませ

なので私が急遽代理になりました。

一昨日車の中で代理を仰せつかりました。「何を喋るんですか」とお聞きしたところ「お任せします」とのことです。プログラムを詳しく見ますと菅生先生が来てくれるとのことで、これであれば大丈夫ということで事前会議も職業奉仕については本会議で聞いてくださいとお願いいたしました。非常に楽な代理になったわけですので。

IM と申しますと本来はその地域のごく身近な中で交流を図ることです。先ず皆さんが顔を親しく合わせる事が一つ、その中で友情を深めて行くことが本来意味でのロータリーの論議をしていただき、その中から奉仕を模索することです。

今年度はロータリーが原点にもどれということですので宜しくお願い申し上げます。平尾ガバナーはご存知のようにあまり長く喋りませんので私なりに喋りますと具合悪いのでこの辺で代理ということで務めさせていただきたいと思います。後はゼネラルリーダーに宜しくお願いいたします。

ゼネラルリーダー挨拶

ゼネラルリーダー 亀岡 弘様



あらためて皆さん今日は。大変お寒い中を沢山お集まりくださりましてありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

本日は 2660 地区のバスターガバナーであり元 RI 理事であります菅生先生に大変ご無理を申し上げまして本日のメインイベントを飾っていただけるお話をお願いいたしております。

菅生先生本当にありがとうございます。先ほどからございました事前会議のほうは菅生先生をお迎えに伺いましたので欠席させていただきましたけれども、皆さんのほうで非常にうまくやっていただいたようで、また、後ほどリーダーの方にお聞きしたいと思います。

先ほどからお話のございましたように平尾ガバナーのご尊父様がお亡くなりになり今日はお葬式のご様子でございます私からもご冥福をお祈りしたいと思います。その代理として前座バスターガバナーが代行していただけるということで本当にありがとうございます。

私としては楽な進行でございます。皆様に乗かってやっているということです。本日は平尾ガバナーの念願でございます「超我の奉仕」ということをテーマにしてこの IM をやってほしいとのことでございます。超我の奉仕ということになりますとどうしても職業奉仕が前提になると思います。このことを考えますと最近の姉歯元一級建築士のビルの耐震問題が深刻になっていまして、その偽装件数もかなり多くなってきたように思われます。

さらにそのチェック機関の無力さが露見してまいりました。すなわち建築行政の信頼性まで崩れてきているのではと考えられます。なんといいましても最大の被害者はその危険なマンションの住民、あるいはホテルということになります。この事件は設計士あるいはマンション販売者周辺の倫理が全く地に落ちたのではないかと言う感じがします。

このような時期に R I 元理事の菅生浩三先生から職業倫理についてお話を承ることはまさに当を得たものではないかと思えます。この菅生先生は先ほどからご紹介がございましたように第 2660 地区バストガバナーでいらっしゃいます。本日はご自分の地区の地区大会にもかかわりませず私がお願いに上がりましたとき、ガバナーエレクトとご相談させていただくということでしたが大変快くお引き受けいただきまして本日このように出席いただいているわけであります。先生はご存知のようにロータリー全てにつきまして大変詳しい方でございます。特に職業奉仕問題に関しましてはすばらしいご造詣をお持ちです。

私ここに先生のロータリー随想という本を持ってきました。この本は先生からご贈呈されたものですが、この本は続けて 4 冊発行されています。これを読まれましたらロータリーが全てわかるような本でございます。私はこれがロータリーのバイブルではないかと思っています。このようなすばらしい先生をお迎えしてご講演いただくということは皆様方にとっては大変幸せなことではと思っております。菅生先生の職業倫理についてお話をお聞きいただいてロータリーの糧になっていただきたいと思いますと思っております。

簡単ではございますがご挨拶にかえさせていただきます。今日半日皆さん勉強の場として一緒に勉強しようではありませんか？

参加クラブ出席報告

登録委員長 打田 RC 榎原ひろ子

	会 員 数	免 除 会 員	出 席 数	出 席 率
橋 本 RC	5 2	4	3 4	7 0 . 8 3 %
高野山 RC	2 6	4	1 3	5 9 . 1 0 %
橋本紀ノ川 RC	2 3	2	1 9	9 0 . 5 0 %
粉 河 RC	3 8	1	2 4	6 4 . 8 6 %
岩 出 RC	3 1	1	2 2	7 5 . 8 6 %
打 田 RC	1 3	0	1 3	1 0 0 %

菅生浩三さん卓話

講演「超我の奉仕―職業倫理―」

菅生浩三さんのプロフィール

1926 年生まれ。1952 年東京大学法学部卒。1954 - 1956 神戸地方裁判所、家庭裁判所の裁判官。1956 年 4 月から弁護士。1962 年大阪北 RC 入会。1987 - 1988 年同クラブ会長
1991 - 1992 年国際ロータリー 2660 地区ガバナー。2002 - 2004 年国際ロータリー理事。
現在菅生法律事務所を主宰。著書「ロータリー随想」建設業関係の著書



皆さん今日は。ご紹介いただきました菅生でございます。先ほどは亀岡先生から身に余るご紹介をいただきまして大変恐縮いたしております。「菅生君、内の I M にきて話しせんかね」という暖かい先生からのお誘いを受けまして二つ返事でお受けして喜んで参上いたしました。

この地域は紀の川沿いとのことで日本の古代史の形成に深くかかわりのある地域で私も個人的に歴史が大変好きで法律以上に好きでございまして喜んで参りました。この地域のクラブの皆様は親しくお目にかかることが出来まして心から嬉しく存じます。

基本のサービスの話をせんかとのことですが、大変難しいことですが私の思っていることをお話いたしまして参考になさっていただければと思います。今年度の R I のテーマが超我の奉仕 “Service above self” です。お話はサービスと職業活動の二つのテーマについて触れたいと思います。お手元にデジメをお渡ししておりますのでお帰りになってご覧ください。

まずサービスですが、サービスというのは要するに綱領の中にあります。我々はロータリーに入るときにロータリーの綱領をよく読んでそれを承認して入会しています。ですからサービスをあまり知らんということではすみません。ロータリーはサービスに尽きるわけです。

綱領は英語でございますがロータリーに入ったならば「サービスをよく理解して、理解するだけでなくしっかりと実行しなさい」と言うことが綱領に書いています。よく理解しなさい、認識しなさい、そのことを頭でわかったというだけでなく実行しなくてはだめで

すよ」と書いてあるだけです。英文で書いてあるので社会主義が違うのでうまく翻訳することが出来ませんが、要するにサービスをよく理解してそれを実行しなさいと書いています。

実行の面では 4 つのことが書いています。クラブとか職業活動、地域社会の問題、国際社会の問題で実行しなさいと書いています。

ロータリーはサービスに尽きるのですが、ところがロータリーの公式文書（定款細則、手続要覧）にはサービスとは何かとはどこにも書いていません。普通は「サービスとはこういうものですよ」と定義してあるはずですがどこにも書いていません。なぜ書いていないかと考えて見ますと実はサービスという綱領は後から出来たものです。

すでにそれより前に二つのモットーが成立していたのです。そのモットーにサービスのことが書いてあるだけでそれを綱領の中に取り入れただけです。だからサービスと言う定義はないのです。サービスと定義を強いて言えばこの二つのモットーに書いてあるサービスが出てくるわけです。だからモットーが大切になります。この二つのモットーは釈迦に説法ですが一つはシェルドン、もう一つはコリンズのモットーです。シェルドンの “ He profits most who serves best ” 「最もよくサービスする者が最も多く報いられる」ともう一つはコリンズの “ Service, not self ” これは 1911 年に出ました。

なぜこういうものが出たかといいますとその背景を理解することが大切です。最初ロータリー・クラブが出来たのは 1905 年の 2 月 13 日ですか、シカゴでポール・ハリスを含むと 4 人のロータリー・クラブは最初社交クラブであった。今日のような奉仕クラブではありません。

最初の目的は主なものは二つで、親睦と相互扶助でした。どういうことかという服を作るときはクラブ会員の服屋で服を作った。訴訟に巻き込まれたらクラブの弁護士に依頼した。クラブの中でお互いに助け合う。この二つが主要な目的であったわけですが、ロータリーはロータリー創立当時の私的な閉鎖的なものから脱皮して公のオープンな団体にする努力する必要があった。

これはシェルドンに刺激されたものですが互惠取引ではだめだ。うちだけのサービスをやっていてはだめだ。社会に向けて堂々と公正な開かれたサービスをしなければならないとコリンズは考えたわけです。シェルドンが “ He profits most who serves best ” と言ったのはクラブの中だけでサービスをしていたのではだめで、社会の全ての人々に向かって堂々と取引せねばならない。相手方のことをよく考え、よく考えるだけでなく自分の同業者のことも考え、自分の所の従業員、仕入先、融資先などいわゆる取引先のことも考える。もっと社会一般を念頭において取引をする。取引の價格的の仕組みに則ることになるからそれを心がけて取引をすれば必ず成功する。

そうすると幸せになれる。シェルドンのモットーが職業奉仕の原則と言われております。

実際の背景というところがそういうところにあったのですが、そこで重大な問題が起こったのです。その問題とは 1920 年までに起こってしまった。どういうことかと申しますと

コリンズの“ Service,not self ”のモットーに対する解釈がものすごい誤解が入ったのです。
“ Service,not self ”は極端すぎる。自分を否定して他人のためにサービスをするのは行過ぎだ。自分を否定することになる。自分は大切だ。自分を大切にしたら上でそれに執着せずそれを乗り越えて他人のためにサービスをすることにしよう。“ not self ”を above self に修正しよう。1918 年か 1919 年ぐらいでしょうが、だれがそういう風にしたのか、どういう機会ですうしたかは分かりません。

そのような経過は一切歴史的に明らかでない結果、今受け継いでいるのが Service above self です。取引を公開せよとなり、精神的な面を持ってきた。人間の存在自身が自分を超えて他人のためにサービスしなさいという意味を持ってきたことによってロータリーの思想が深まった。

シェルドンのほうはどうかというと “ He profits ”の profit とは経済的な物的な表現なのです。

精神的な価値では言語上障害があるのでコリンズのほうが第一のモットーになってしまった。このような経緯があると私は見えています。

シェルドンの 1905 年当時のシカゴは現在の日本以上にお金唯一でありました。金に目が飛びしっている人に精神的なことを説いたって役に立はるがな。それで経済すなわち取引問題に限定してサービスを唱えたとするのです。それが幸か不幸か足かせになってシェルドンさんのモットーは取引の上に出ることはなくなった。“ Service,not self ”が誤って above self になったために人道的なテーマの原則が格上げになってしまった。本年のロータリーのテーマはそう言う背景があります。

我々ロータリーの基本はサービスに始まってサービスに終わると言われています。そのサービスをどう理解するか？シェルドンやコリンズの思想を受け継いでいますがそのように墨守する必要はない。我々は彼らの主張をより深く尊重しながらしっかりとサービスを理解したほうが良いと思います。

私の考えとしては次のように思っています。人間としては他人のお陰で生きているわけです。もちろん「自分のことは自分でします」という自己責任 自分で生きているのだと思いがちですが実は人によって生かされているんですね。たとえばこういうことは抽象的に言っても仕方ありませんが皆さんは資産をお持ちだと思いますよ。

沢山土地をお持ちになってこの土地は㎡あたりいくらでいくらの財産を持っているんだと思っておられませんか？それはそれで結構ですが、しかしよく考えたらその土地に㎡当たりいくらと値をつけているのはあなた方でないのですよ。人様がつけているのです。

大阪の町の中で一番土地の値が高いのは阪急前と言っていますが、あれだって大阪市民が一生懸命活動して景気を上げて値をつけているのです。株の銘柄だってそうでしょう。

自分が上げているのではなくて人様が上げています。もっと言えば社会がつけているのです。みんなの税金で社会のインフラをしっかりと整備するから財産の価値が上がっている。

社会がインフラを整備することに対してあなた方も多少は貢献しているかもしれません

が、あなた方だけの成果ではありません。

「俺はなるべく人の世話にならなくて自分のやることはやって生活している、自分でやることは自分でやっているのだ」とおっしゃいますけれども自分でやることも人様のお陰がなくては何も出来ませんよ。それから精神的にもそうなのです。奥さんと仲たがいしてもう顔も見たくない、俺は人間が嫌になったと言っても、まあ 3 日ですか、一週間持つかな？もうどうしようもないですよ。刑罰で禁固刑というものがありますが、懲役刑は働いていますので楽ですが、禁固刑は閉じ込めるのでこんな苦痛はないですよ。人間は精神的に他に依存しているので、それを絶たれたら大変なことになります。人は人様のお陰で生きている、もちろん自分の力もありますが。そこを率直に見なければなりません。見るだけではなくて心を見なければなりません。皆さん心を持っているのです。

おいしいものを食べただけでは幸せになりません。自分が納得しなければ幸せになりません。納得するにはいろいろありますが自分は人様のお陰で生きているのだから自分も人様のためにしっかり働いてみようと言う自覚と言うか充実感というか、それを自覚して初めて俺は生きている、profits ですな。幸せと自覚できるわけです。サービスと言うのはそういうものです。

自分は人のお陰で生かされていると言う存在だから自分も人のために役に立つように努力して満足できれば幸せである。人間の根本的な幸せであると良く信じて生きることをサービスに生きることだと思えます。

シェルドンやコリンズはまだそこまで考えていなかったかもしれませんが、突き詰めるとそうならざるを得ません。これはアングロサクソンや日本民族などの人種に関係はありません。およそ人間の社会と言うものは、すべて根本はそうであると私は思います。だからサービスがロータリーの専売特許だと思ったらいけませんね。地球上で生きている限り基本である真実ですが、自覚していない人が大部分ではないですか？自覚していても実行していない人々が沢山います。実行すると言うことはなかなか難しい。

そのロータリーと言うものの存在意義があるのです。ロータリーでその認識を深め、実行する。これはロータリーの綱領です。綱領にそう書いています。率直にそれを認めて実行する。そのために我々ロータリアンがあるのです。以上がサービスについての私の粗雑な意見です。

次は職業と職業活動の意義ですが、ポール・ハリスは、「社会に役に立つ人間なる方法は色々あるが、最も身近で効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にあります」と述べています。なぜそうなるかが大切だと思います。私はこう思うのです。人間はニーズの固まりなのです。いろんな見方がありますが、A さん、B さん、C さんとたくさんおりますが毎日それぞれ何をしているかと言いますとニーズの連続です。ニーズがあると言うことが生きているということ。ニーズがなくなったら人間は死んだと同じです。ニーズの中には必要でないものの中にはありますが、原則的にはニーズが充たされなければなりません。

ん。満たされないと欲求不満になります。満たすのは、一部は自分で満たす自己満足がありますが、大部分は人様のお陰で満たされているわけです。一番わかりやすいのは食事です。

このように近代的な社会になってきますとニーズも細分化され、多様化され、えらいことですな。皆さんよく胸に手を当ててお考えください。俺のニーズを満たすことで24時間過ぎてしまったなあ、一生そうですよ。人間にとって一番の課題はそのニーズを満たすということです。それを満たすのが職業です。ひっくり返して言うと職業というのは他人のニーズを満たすための活動、作業であるということになります。

人様のニーズにならない職業もありますが、(学術研究などは微妙なところですが、)原則的には他人のニーズを満たすのが職業なのです。ニーズは人間の存在自体でしょう。いわば根源的なものです。それを満たす作業は人間として根本的な作業です。ロータリーにおける職業活動の把握というのはそういう目で見なければなりません。社会は人間のニーズの海のようなもので、ひっくり返すと職業活動の集積であります。だからその社会を良くするにはどうするかと言うと、職業活動を良くする以外には方法がありません。社会が良くなったらそこにいる人々が、一人一人が幸せになる。

ロータリーが言っている職業活動のとらえ方には、三つの段取りがあります。まず、第一は職業が我々の社会においてどういう意味を持っているか？そこに住んでいる人々のニーズを根源的に充足しているか？最も根本的な意義を持つ、価値、立場をしっかりと理解することが全てのスタートです。次に充足すると言っても低いレベルではだめでもっと高いレベルで満たすほうが社会はよりよくなります。大変大切だと認識して次にその基準をなるべく高いレベルに設定することが2番目に必要になります。

3番目は一般論でなく各論です。一人一人が毎日職業活動していますが、それがベストになるように努力する。3つの段階をしっかりと理解しなければなりません。これが、綱領の第2に職業奉仕として謳われているところですが英語で書いているのを何遍読んでもわかりにくいですが、綱領に3つ書いてあります。そのつもりで綱領の第2を読んでください。第1と第2の順序が逆になっているので余計にわかり難くなっています。ロータリーの職業活動というのは基本的にそういうものである。

しかし職業奉仕とサービスがどういう関係にあるかは、サービスとは人のことを思い、人のために尽くすことです。職業活動はそうでしょう。人様のニーズに沿うよう努力しているのですから。サービスを実行したらそれが職業活動です。これについて注釈をしなければなりません。普通世の中の人々は職業をそのように理解していません。人様のニーズに沿うようにサービス活動していません。

一般の社会では、職業は、自分の生計のための手段であるとか、財産形成のための手段であるとか、社会的な地位や名誉を確立するための手段であるなどと理解されています。

このような考え方は、極めて常識的で、間違った考えではありません。しかしながらこのような考え方の職業は、いわば自分のための職業であります。自分のための職業である

とその職業に振りまわされます。そのためには色々な制約を設ける必要が出てきます。

たとえば、貪ってはならないとか、逆に手を抜いてはならないとか、不正な手段を使ってはならないとか、違反に対して罰則を設けたり、行政的な規制をしたり、最近では内部告発を奨励するような制度化などの努力が重ねられています。しかしながら、これらの制約には限界があります。現に私どもは、世界各地域における巨大な企業の衝撃的な不祥事や、もっと厄介な事に、社会の各層各面で絶え間なく発生しているさまざまな人々も慢性的な非行に悩まされ続けています。

ところが、ロータリーのいう職業とは、他人のニーズを充たすものでありますから、他人のための職業であります。自分のための職業から他人のための職業への 180 度の内部での意識転換こそが、職業倫理の第一歩というべきでありましょう。他人のための職業であれば、自分のための職業に必要であった多くの制約の大部分が不必要になるでしょう。他人のための職業とは、私どもの心の内面の制約に基づくものであるからです。正にシェルドンのモットー「最もよくサービスする者は、最も多く報いられる。」*“They profit most who serve best”*に指摘されるとおりであります。

第二のコメントは

ロータリアンはその属するロータリー・クラブの所在地域の職業の代表者であるとか、あるいは職業分類の表を作ってその地域にどういう職業があるかを網羅して自分とこのクラブはどれだけ充足しているか、どれだけ足りないかを絶えず見なさいというような考えがありました。

事務的に職業分類を見ていてはダメです。職業というのはその地域の人々のニーズに充足するという使命を持っているわけですからそのためにロータリー・クラブがあるわけで、会員として入会しているわけですからその人の職業というのはその地域の職業の代表として入っているんだと評価を与えなくてはなりません。

その地域の職業全体の仕組みを認識してクラブがどれだけ充足しているかを絶えず見なければなりません。職業分類をなおざりにしてはなりません。

ロータリアンが職業活動を行う場合、自分の地域で行うのが基本ですが、その地域を離れて他の地域で職業活動を行うのもありえます、これはおおいに奨励されます。職業活動の範囲は、会員とクラブの創意によって無限に広がるものであります。会員がロータリー・ボランティアとして自己の才能や技術を、それらを必要としている世界の色々な地域に齎らすことや、研究グループ交換などの多くの財団プログラムなども、職業活動を国際的に拡大する側面を備えています。さらに双子クラブのプログラムもロータリアンの職業上の才能や技術による奉仕を、他の地域に広める手段となるでしょう。

シェルドンのモットーを狭く理解して職業奉仕活動をして自分が利益を享受する。他の地域で行う職業奉仕は社会奉仕、国際奉仕と言われる方もありますが余りそう言う概念にこだわってもあまり意味がない。満足を自分の心の満足と理解すれば他の地域でやっても

職業奉仕になるわけです。

最後のコメントは、職業奉仕は個人がやるものでクラブが職業奉仕する、RI も理事会決議では両方やるとしています。私もそれでよいと思います。職業奉仕は職業活動自身なのですが、クラブとして会員の職業活動を支援したり、お世話したり、評価したり、色々とその周辺の条件整備することによって会員の職業奉仕活動が活発になる。それによってクラブが職業奉仕に従事することになる。クラブには職業がないのだから職業奉仕はありえないとおっしゃる方もおられますが、それもいいですが、私は緩やかに解釈するほうが良いと思っています。以上でサービスと職業活動について説明を終わります。これに付きまして「ロータリーの綱領」とか「四つのテスト」、「ロータリーの道徳律」、「ロータリアンの職業宣言」、「大連宣言」、「23 - 34の決議」など念のためもう一度お読みになってください。

最後に私見を二つばかり付け加えたいと思います。まず、第一が「思いやり」です。ロータリーでは絶えず相手への思いやり、人間愛、友情などがロータリーであると言われます。

それとサービスが同じなのか、違うのか？という問題が出てきます。この点につきましてはロータリーとは複雑な組織でございます。ポール・ハリスが最初スタートしたのでありますが、彼の父方の先祖はスコットランド系の移民で、母方の先祖はアイルランド系の移民で、ともに清教徒であり、カルヴァン派のプロテスタントでありました。彼らが定住したニューイングランド地方の気風は、人間愛と友情を基本とし、家族や子供たちや仕事を大切にする素朴な生活を重んずるもので、幼年期からここで育ったポール・ハリスはロータリーにその気風の大部分をその血肉として注ぎこみました。あまり金をかけるな。素朴にやれ。愛情が大切だ、絶えず相手のことを思いやれ。

こういうロータリーの性格はそこから来ています。ただ、そのような人間愛は、どちらかと言えば個人的な資質でしたのであり、ロータリーという団体が社会的な幅を持った活動を行っていくにはそれだけでは大変だということです。それを基にして、社会性を加味してサービスとかあるいは職業活動をそこに持ち込んでロータリーというものが成立したという関係ですから、お互いに排斥するのでは全くなく、両方が両立しているものと思います。

最後のコメントですがこれからのロータリー活動をどう考えるかですが、とにかく私たちは欧米のことを勉強して今日来たのです。何を勉強したのかと言いますと個人は絶対だ。

競争の自由な社会です。だから一生懸命知能教育をしてきました。そのお陰で我々の知識レベルが随分上に上がったし、技術的な能力も随分磨かれました。それによって社会の外は美しく整備されました。ところが一番大切なのはそれを運営するのが人間でしょう。

その人間自体をどうするか、どう育成するかがお留守になった。人づくりに無縁であった。そのために我々の社会の状態がどうであるかという学校、家庭、地域社会で青少年を教育する力をほとんど失くしました。企業は仁義なき競争をしているのではないです

か？それから「個人が絶対だ」と実に都合よく理解されています。自分の欲望のためには人さんの都合とか幸せなんか平気で踏みにじる人たちがどんどん増えているのではないですか？

そんなことは我々が地球の一部を占拠してまだ余裕がある時でしたらまだ逃げたらよいのですが、今はえらい時代で数秒のうちで世界に意志が伝達されるんですから、もう逃場が無くなっているんですよ。地球と言う自然環境はもう限界に来ているのではないですか？人間の精神も公正に保たねければなりません。健康でなければなりません。これもぼちぼち限界に来ているのではないですか？生物と言うのは自分の特色で自滅すると言われています。人間の特色は知能ですから「知能で自滅するのです」といわれています。だいぶ近づいているのと違いますか？だからこれを何とか食い止めるかと言うと、結局、人間は人様のお陰で生きている。人さんだけでなく自然のお陰で生きているという初心というか原点と言うか、辛いけどもう一度そこからやり直しをしなければならないでしょう。

刻々とその時期が来ているのではないのでしょうか？そのためにはロータリーは昔からサービスと言っています。「人様のお陰で生きてきている」ことがサービスです。だから言うだけでなく実行しなければならないのです。ロータリーというのは今後社会をよくするとこでなく、社会が破滅しないようにしたささえするぐらいのことと考えなければならないことになってきている。私たち個人だけでなく社会的活動と言う面でもしっかりとした成果を挙げることを期待して終わりたいと思います。誠にご清聴ありがとうございました。

閉会式

概況 ゼネラルリーダー パストガバナー 亀岡 弘様



菅生先生には長時間に亘りまして大変いいお話をうけたまわりましてサービスの理念が何かと先生のお考え、コメントで我々はわかった様な気がしますし、また、職業活動についても先生がコメントで示されたされたそのものがすべてではないかと思います。そしてまた後のご質問に的確にお答えになられました。今日はおそらく皆さんお聞きになっている方は職業奉仕とはかくあるべきであるともまず教えられたような気がします。どうぞ皆様も自分の職業について、あるいはクラブに帰りましてもう一度クラブホームランをしてい

ただいてこの職業倫理を含めて一つお考えになっていただければ幸いです。本当に今日は長時間にわたりましてありがとうございました。そして IM を主催していただきました打田 RC クラブの皆様方少人数であるにも関わりませず大変うまく運営していただきまして厚く御礼申し上げます。今日の IM は私から言うと 100 点ではなかったかと思います。大成功であったと思います。本当にありがとうございました。

次回 IM 主催クラブ

岩出 RC 会長 長濱順三様



ただ今紹介いただきました岩出 RC 会員のお陰で会長をさせていただいている長濱です。どうか宜しくお願いいたします。本日は打田 RC が素晴らしい IM を開催していただきまして本当にありがとうございます。次年度岩出 RC がこのように素晴らしい IM をお手本どおり出来ますかわかりませんがゼネラルリーダーのご指導の下、IM を岩出の下でさせていただきたいと思います。先ほど前窪パストガナバーのお話にあったように IM の目的は地域の皆さんと交流を深めることが目的となっています。次年度は一つ全員の方が岩出の地に来ていただきたいと思っておりますので簡単ですが挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

閉会の挨拶

IM 実行副委員長 井尻和男

皆さん今日は。副実行委員長の井尻でございます。本日は菅生先生をお迎えしての今日の IM におきましては地区の役員様を初め IM4 組のメンバーの皆さん多数ご出席くださり、また、部門別会議から本会議にいたるまで長時間にわたりご討議いただき、また大変ご協力いただきましてありがとうございました。お陰をもちましてすべての項目を終了することが出来ました。これをもちまして今年度の IM を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

フレッシュ会員・職業奉仕委員長会議

フレッシュ会員・職業奉仕委員長会議

参加者 ガバナー代理 前窪貫二様

パストガバナー 水田博史様

ガバナーエレクト 三軒久義様

職業奉仕委員会委員の皆様

入会 5年未満の会員



米山奨学部門別会議

参加者 米山奨学委員会の皆様

各クラブ米山奨学委員長



ロータリー財団委員長会議

参加者 財団委員長、GES 委員
各クラブロータリー財団委員長

